

臨床研究の実施に関する情報公開

静岡県立総合病院では、臨床研究倫理委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

この研究のために自分の情報を使って欲しくないと思われる方は、問い合わせ先までご連絡ください。

研究課題名	動脈表在化に静脈表在化を併設する手術に関する調査
研究機関名	静岡県立総合病院
研究責任者	村上雅章
研究期間	院長決裁後から ～ 2020年 12月
対象者	2015年1月以降で動脈表在化に静脈表在化を併設した手術を行った方
当該研究の意義・目的	<p>血液透析にはバスキュラーアクセス（透析を行うための血液経路）が必要です。その中でも AVF（自己血管内シャント）が感染の頻度が少ないことや長期予後に優れていることから第一選択とされていますが、近年は糖尿病性腎症や高齢者の透析患者の増加により、AVF を作製できない症例が増加している。</p> <p>一方、我が国には昔から、シャント作製が困難な症例に動脈表在化という手術が行われてきました。しかし、返血に使用する血管が乏しいとこの術式は施行出来ません。当院では、動脈表在化と静脈表在化を併設し、深部の静脈を表在化することにより、返血に使用する表在血管の乏しい症例に対しても、動脈表在化が使用可能となる術式を行っておりますが、手術の成果と合併症、開存率等を調査します。</p>
方法	<p>対象となる患者様の診療録（カルテ）から次の情報を調査します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 年齢 ② 性別 ③ 糖尿病や冠動脈疾患、末梢動脈疾患、抗血小板薬や抗凝固薬の内服の有無 ④ 原疾患 ⑤ バスキュラーアクセスの状態 ⑥ 治療にいたる主たる要因 ⑦ 治療内容や効果 ⑧ 開存率 ⑨ 合併症 ⑩ BMI ⑪ 生存率

個人情報の取扱い	<p>調査により得られた情報を取扱う際は、患者様の秘密保護に十分配慮します。研究で使用する情報は病院外に持ち出しません。パソコン内で情報を取り扱う時は、パソコンはインターネットに接続しない環境下で使用します。</p> <p>研究結果を専門の学会や学術雑誌に発表することもあります。その際に患者様が特定されないことがないよう個人に関する情報（住所・氏名など）は外部に一切公表しません。</p>
問合せ先	<p>◆その他、この研究に関するお問い合わせ、苦情等ございましたら下記へご連絡ください。</p> <p>静岡県立総合病院 腎臓内科 村上雅章 代表 054-247-6111</p>